

小学校第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

単元名：「伝えよう！命の守り方」

指導者 熊野町立熊野第一小学校 井手 恒輝

- 1 日 時 令和3年10月21日（木）5校時
- 2 場 所 5年3組教室
- 3 学年・学級 第5学年3組（32名 男子20名 女子12名）



単元について

近年、季節を問わず頻発する様々な自然災害は、日本各地に甚大な被害をもたらしている。本校においても、平成30年7月豪雨災害を経験したことや、今年に入っても避難指示レベルの豪雨を経験していることから、自分たちの命を守ることにについて考えることは喫緊の課題と言える。

本単元は、熊野町の安心・安全について自ら課題を見付け、防災・減災について情報収集したことをまとめ、発信しながら、自己評価や客観的評価から新たな課題を見付け、学習が継続する学びのサイクルで構成している。探究的な学習においては、学んだことを自己と結び付けて、自分の成長を自覚したり自己の生き方を考えたりするため、総合的な学習の時間として適切な単元であると考え。さらに、防災・減災について学び、地域の安心・安全を見つめ直すことは、平成30年7月豪雨の被災地である熊野町に住む児童にとって身近なこととして捉えやすく、価値ある学習活動であると考え。

また、本単元を通じて、熊野町の防災・減災対策についての未来を思考する次世代の担い手やつなぎ手を育むことはもとより、児童の学校での学びを通じて、現段階における直近的な家庭や地域の防災・減災対策を促進するという副次的波及効果も期待できると考えられる。

児童の実態

本学級は、友だちと話し合ったり、タブレットを用いて考えを共有したりする活動に意欲的に取り組む児童が多い。一方で、「自分の考えを伝える」ことについての学級アンケートでは、約半数の児童が「苦手」と答えている。その理由の多くは、「間違っていたらはずかしい」「自信がない」というものである。授業の中でも、発表者の偏りや、答えのない問いに対して萎縮する場面が多く見られる。単元の中で、自分の考えに自信をもって表現できる手立てを講じる必要があると考える。

また、本学級において、総合的な学習で育成を目指す資質・能力と、本単元の学習内容に係わる事項について、児童の実態把握のため、次の5つの事項において、選択式アンケートと選択理由等におけるアンケートを実施した。（令和3年9月2日実施／32名）

質問内容	肯定的回答（人）		否定的回答（人）	
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
① 授業では、情報を比べたり（比較）、仲間分けしたり、（分類）、関係を見付けたり（関係付け）して、何が分かるのかを考えていますか。	7	18	7	0
② 授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしていますか。	13	17	1	1
③ 平成30年7月豪雨（西日本豪雨）のことを覚えていますか。	14		18	
④ 災害が起きた時の、正しい行動の仕方を知っていますか？また、どんなことですか？	15		17	
⑤ 避難所に避難したことはありますか？	1		31	

アンケートの結果から、特筆すべき点として、ここでは④、⑤の問いについて扱いたい。

④、⑤については、まず、災害時の正しい行動について「知っている」と答えた全児童に、具体について問うた。すると、15名のうち11名が「避難する」という内容の回答であった。しかし、⑤の問いの結果にもあるように、実際に避難経験のある児童は1名しかおらず、児童の災害についての知識と実際の生活には大きなズレがあることが分かった。

これらのことを踏まえて、児童が災害を自分のこととして捉え、故郷である熊野の安心・安全を自分たちの手で支えていきたいという思いをもち、自ら行動できる力を身に付けさせる学習にする必要があると考える。

単元の指導および協働的な学びの場の設定について

課題設定の場面では、熊野町は安全が確保されていて、自分たちは安心して過ごすことができているか、防災・減災の視点で考えさせる活動から始めた。それについて意見を出し合い、「地域や県民に、熊野は安全だと言い切ることができ、熊野の人々が安心して暮らすことができる町とはどんな町？」と問いかけることで、「災害での被害をなくすための方法を知りたい。」「熊野町の現在の取組について調べたい。」など目的や課題を明確にしていき、防災・減災への見方・考え方を広げてきた。

情報収集の場面や整理・分析の場面では、広島県みんなで減災推進課や熊野町防災安全課、熊野東防災交流センター、家族や地域住民との連携を図りながら、アンケート調査やインタビュー、体験・見学をする等、可能な限り実際の地域の実態に触れる場を設定した。

まとめ・表現の場面では、他学年の児童や保護者に向けて、探究的な学習によって学んだことや考えたことについて学習発表会で伝え、次単元の「命を守るために」につなげていきたい。学習発表会から新たな探究のスパイラルへと誘い、災害から「命を守る」ために、自分たちにできることについて考動する場へと紡いでいきたい。

協働的な学びの場については、調査や体験・見学等によって情報収集する中で生まれた自分の考えを交流する場面を設定する。また、自分が探究したいテーマ別でグループを設定することで、課題設定に対して主体的に取り組ませたい。

異なる視点の意見を出し合い、検討していくことで、事象に対する認識が深まり、学習活動を更に探究的な学習へと高めていきたい。

単元の目標と評価規準

【単元の目標】

- 災害に関する調査を進める中で、災害を自分ごととして捉え、調査結果から命を守る行動(三助など)に対する価値判断を行い、自分の考えを発信することができる。

【評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
ア 分かる・できる力	イ 自分の考えを表現する力	ウ 協働する力	エ 自分の成長に気付く力
① これまでの総合的な学習の時間の調べ学習と、自らの生活を振り返り、課題を設定することができる。 ② 課題解決に向けて情報収集し、自らの考えや立場を明確にする中で、必要な情報を取捨選択し、話し合いや調査を通して発信する情報を精選し、自らの考えを構築している。	① 「命を守ること」を常に意識し、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したりしながら課題解決に向けて考えている。 ② 災害について、相手に応じた情報を伝えるために、筋道を立てて思考を深め、表現している。	課題の解決に向けて資料を集めたり、調査したり、まとめ・分析したりする活動を、仲間と対話的な活動を通して進めている。	学習を振り返り、災害に対する自分自身の考えの変容や、自らの成長を実感している。

指導と評価の計画

①災害について知ろう

【本単元】
②伝えよう！命の守り方

③命を守るために

	学習内容『伝えよう！命の守り方』（時数：20 時間）	主たる評価規準
一	<p>課題の設定</p> <p>○熊野町を「防災・減災」の視点で振り返る。（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊野町での生活を防災の視点から振り返り、熊野町は安全が確保されていて、自分たちは安心して過ごすことができるか考えさせることで、自分を取り巻く防災自体に疑問をもち、情報収集に向けての意欲を喚起する。 	<p>ア 分かる・できる力</p> <p>① これまでの総合的な学習の時間の調べ学習と、自らの生活を振り返り、課題を設定することができる。</p>
二	<p>情報の収集</p> <p>○自分を取り巻く防災について調査する方法を検討する。（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 何について、どこで、どのような方法で調査するのかを明確にしながらか検討させる。（見学・アンケート調査・インタビュー調査など） <p>○日本の防災・広島県の防災・熊野町の防災について、自助・公助・共助の視点から調査する。（8）</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場に実際に行き、防災倉庫を実地調査する。 アンケートで災害発生時の実情を調査する。 身近な人に直接、災害発生時の様子をインタビュー調査する。 公的機関の方々に直接、災害発生時の様子をインタビュー調査する。 実物を取り寄せて調査する。 書籍やインターネットで調査する。 防災出前講座を受講し、マイタイムラインの必要性、書き方について知る。 	<p>ウ 協働する力</p> <p>課題の解決に向けて資料を集めたり、調査したり、まとめ・分析したりする活動を、仲間と対話的な活動を通して進めている。</p> <p>イ 自分の考えを表現する力</p> <p>① 「命を守ること」を常に意識し必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したりしながら課題解決に向けて考えている。</p> <p>ア 分かる・できる力</p> <p>② 課題解決に向けて情報収集し、自らの考えや立場を明確にする中で、必要な情報を取捨選択し、話し合い調査を通して発信する情報を精選し、自らの考えを構築している。</p>
三	<p>整理・分析</p> <p>○調査によって収集した防災に関する情報を整理する。（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報を見直し、欠如する部分等においては追加調査しながら整理する。 <p>（本時）</p> <p>○収集した防災に関する情報を分析する。（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自助・公助・共助の情報を分析する中で、三助の役割を捉える。 	<p>エ 自分の成長に気付く力</p> <p>学習を振り返り、災害に対する自分自身の考えの変容や、自らの成長を実感している。</p>
四	<p>まとめ・表現（次単元へのつながり）</p> <p>○整理・分析したことをもとに、災害から「命を守る」ために大切なことを学習発表会で伝える。（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手を意識して、伝えたいことをまとめる。 学習発表会を見た保護者や他学年、教員からの感想から本単元を振り返り、自分たちの活動をさらに改善したり広げたりすることについて考え、次単元を構想させる。 	<p>イ 自分の考えを表現する力</p> <p>② 災害について、相手に応じた情報を伝えるために、筋道を立てて思考を深め、表現している。</p> <p>エ 自分の成長に気付く力</p> <p>学習を振り返り、災害に対する自分自身の考えの変容や、自らの成長を実感している。</p>

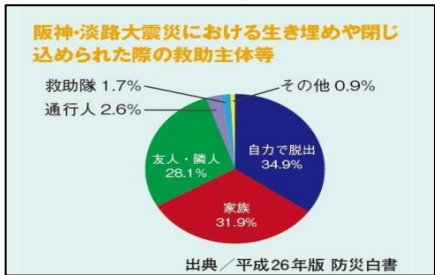
本時の学習（16／20 時間）

本時の目標

三助の役割についての見方をもち、自分の考えと他者の考えを比較する中で、災害において必要なことについて考えることができる。

- (1) 準備物 電子黒板・タブレット PC・ワークシート
 (2) 本時の学習展開

板書計画

学習活動	指導上の留意事項 ◎支援を要する児童への手立て	評価規準 (評価方法)
1 問題を把握し、本時の課題を設定する。		
○前時までの学習を振り返る。	・防災に関わる三助（自助・公助・共助）の視点から振り返りを行う。	
2 めあてを設定する。		
【めあて】命を守るのに一番大切なのは、「自助・公助・共助」のどれか考えることができる。		
3 自分の考えをもつ。		
○自分の立場を明確にする。	・これまでの学習で集めた情報をもとに、ワークシートに自分の考えを書かせる。 ◎立場を決められない児童には、三助の役割を再確認させ、自分の集めた資料を振り返りながら考えさせる。	
★4 協働的な学びの場		
○自分の意見と友だちの意見を比較する。 ○掲示資料を読み取り、資料からわかることを話し合い、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・Jamboard を用いて考えを共有することで、多様な考えに触れさせる。 ・「自助・共助・公助」それぞれの助かった人の命の割合に着目させることで、三助のバランスは等しくないことに気付かせる。 ・「助かった人の命」についての資料ということは、助からなかった命が存在する事実について認識させる。 ・救助率約1%の「公助」は不必要であるか問うことで、命の価値についての思考に迫る。 ・砂防ダムによる事前防災の事例を提示することで、公助の大切さを再確認させる。 ・本時の学習を活かしながら、「防災」から「減災」へとシフトさせる。 	
 <p style="font-size: small; text-align: center;">出典／平成26年版 防災白書</p>		
○「減災」という概念を獲得する。		
5 本時のまとめを行う。		
○本時のまとめをワークシートに書く。	【まとめ】災害において一番大切なのは、一人でも多くの命を助けることである。	
6 本時の振り返りをする。		
○本時の振り返りをワークシートに書き、その後学級で共有する。	・ワークシートに書いた後に、Google クラウドにも自らの考えを要約した短文で振り返りを記入することで、友だちの考えにも触れさせる。	●学習を振り返り、災害に対する自分自身の考えの変容や、自らの成長を実感している。ワークシート、発言（自分の成長に気付く力）
【振り返り】(例) 自助・共助・公助はどれもかけがえのない命を守るために大切なものだと思つた。「減災」についても、自分たちにできないか考えていきたい。		

板書計画



参考文献

- ・ 朝倉淳・永田忠道（2019年）『総合的な学習・総合的な探究の時間の新展開』学術図書出版社
- ・ 国土交通省（2020年）『総力戦で挑む防災・減災プロジェクト～いのちとくらしをまもる防災減災～』
- ・ 国土交通省（2020年）『みんなで始める防災・減災～国民一人一人ができること～』
- ・ 永田忠道（2020年）『学校教育6月号』広島大学附属小学校学校教育研究会
- ・ 中村祐哉（2019年）『熊野町学力向上事業』「総合的な学習の時間」部会 小学校第5学年「防災について知ろう」学習指導案
- ・ 中村祐哉（2021年）『地域の減災レガシー構築に向けた初等社会科における実践的アプローチ』日本社会科教育学会
- ・ 松村英治（2021年）『令和時代の総合的な学習の時間入門』東洋館出版社
- ・ 文部科学省（2017年）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社
- ・ 文部科学省国立教育政策研究所（2020年）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』東洋館出版社